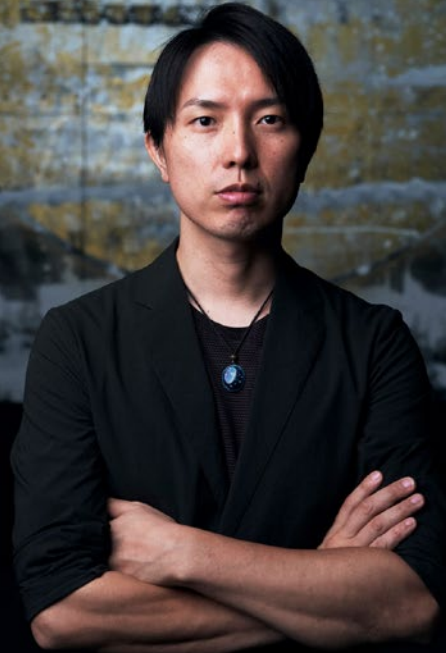


福井発SDGsトップランナー 希代の美術家・長坂真護



Plastic Boy (2018)
Oil and E-waste on Canvas H160cm W116cm

ながさか まご
1984年福井市生まれ。科学技術高校出身。2009年に路上の絵描きとなり世界を放浪後、2017年に世界最大級の電子機器の墓場と呼ばれるガーナのスラム街・アグボグプロシーへ向かう。それ以降、スラムの人権と環境保全を改善するため廃棄物で作品を制作し、その売上から生まれた資金で、現地にアートギャラリー、リサイクル工場建設、オーガニック農業やEVの事業を展開。経済・文化・環境の3軸が好循環する新しい資本主義の仕組み「サステナブルキャピタリズム」を提唱。この活動に賛同したハリウッドプロデューサーによりドキュメンタリー映画『Still A Black Star』が完成し、アメリカの映画祭で4冠受賞。2022年には10万人を動員する個展を開催、この年「ベストドレッサー賞」にも輝いた。そして2025年、大阪関西万博においてプロデューサーの中島さち子氏とともに作品制作を行なう。



Koutarou Washizaki (hannah)

ガーナとの出会い

©MAGO CREATION

彼が初めてガーナを訪れたのは2017年。雑誌に載っていた、うずたかく積みあがったゴミの山に一人たたずむ子どもの写真に衝撃を覚え、「世界中にこんな場所があるのか」と調べた先にあったのは、世界最大級の電子機器の墓場・ガーナの アグボグプロシー。それが現実かどうかを知るため、たった一人ガーナに向かった。電子機器のゴミと生ゴミが一面に広がり、マスクがなければ30分も持たないほどの悪臭。スラム街の人たちは電子機器のゴミを燃やした後に残った金属を売り、1日12時間働いても500円という賃金の中で暮らしていた。美術家として何ができるか、ひらめいたのはゴミと彼らの肖像画を組み合わせた作品。制作するアートが売れるか売れないかという損得勘定よりも、今伝えなければならないという衝動が大きかった。



Ghana's flag (2020)
Oil, E-Waste and cement on Woodpanel H120cm W120cm



アグボグプロシーに棲む野牛 (2019)
Oil and E-Waste on Canvas H130cm W194cm

アグボグプロシー

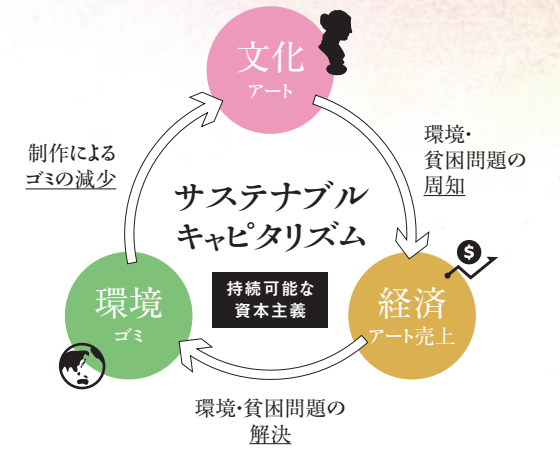
西アフリカに位置するガーナ共和国の首都・アクラの西に位置する世界最大の電子機器の墓場。かつては緑が広がる湿地帯だったが、最近になって電子機器のゴミ (E-waste) が運び込まれるようになり、湿地の上に捨てられているために歩いていても地面が柔らかいという。さらに生ゴミが捨てられているほか、世界から“寄付”と称してやってきた衣服も約10mの山になるほどに捨てられている。電子機器を燃やすために有毒ガスが立ち込め、冷やすために金属にかけた水が有毒性をもって川に、そして海に流れ込むという現状が起きている。



(写真上)アグボグプロシーの子どもたちに絵を教えている。彼らが「superstars」のアーティストとして、絵で生計を立てられるようになっている。

(写真下)リサイクル工場で働く地元の人たちも増え続けており、リサイクルプラスチックを使った「MAGO BLOCK3」は世界中から注目を浴び始めている。また農業部門ではモリンガの輸出も始まった。電動キックボード「EQCO」の第1弾も発売開始した。

(写真最下部)先進国が送りつけた衣類を集めるために「ビーチボーイズ」を結成。集めた衣服は二酸化炭素を極力排出しない方法で処理され、ブロックを生成することに成功した。今後商品化に向けて試行錯誤を行なっていく。



サステナブルキャピタリズムとは

ガーナの電子機器のゴミで制作したアート(文化)に投資されたお金(経済)がガーナのゴミを減らす(環境)ように、経済・文化・環境の3軸が好循環する新しい資本主義の仕組みを「サステナブルキャピタリズム」と提唱している。このサイクルが回り始めることで、よりガーナの環境・貧困問題が世界中に知られ、サステナブルで人権が平等な社会を地球規模で作っていくことを目指している。

ガーナへの還元

世界中の人が彼の作品に共感し、絵画を手にとることとなる。その資金でガーナにリサイクル工場を建て、ゴミを野焼きしない流れを作り、農場を作ってモリンガとコーヒーの栽培も始めた。さらにガーナの人々が大好きなバイクを産業とするため、まずは電動バスの現地生産を目標にした活動も始めるなど、次々に産業と雇用を生み出している。加えて子どもたちに教育の場を提供しようと無料の学校を設立、自身もアートを教え、子どもたちが描いた絵を先進国で販売し、売り上げの1割を描いた本人に渡す「superstars」シリーズも人気となっている。

大量生産・大量消費を続ける

社会への警鐘

ガーナには先進国が寄付と称して多くの衣類を送っているが、人口を大きく上回る量の服は、結果的にゴミとなり、海を覆いつくし、海洋汚染につながっている。彼は現地の仲間たちと共にビーチクリーンを行ない、集まった服のゴミを作品にするほか、炭化させてブロックに形を変える取り組みを行なっている。



ガーナの海岸に投棄されたアパレル部品を炭化炭素にて圧縮し生成したカーボン系炭化炭素にて圧縮し生成した建材ブロック。60%使用した建材ブロック。約7kgの約14トンのアパレルゴミから、約7kgのブロックが作られています。

1 MAGOアート企画展

会期 令和6年5月23日(木)～6月4日(火) 10:00～20:00

会場 西武福井店 6階催事場

スラムの人権と環境保全を改善するため、
廃棄物でアートを作り続ける
福井県出身の美術家 長坂真護氏の作品を
お楽しみください。



2 ふくいSDGsフェス

会期 令和6年5月25日(土)～26日(日)、6月1日(土)～2日(日) ※調整中

会場 西武福井店

SDGsに取り組んでいる県内の企業や団体の
体験・販売を行うブースを設けます。
ぜひ遊びに来てください。



福井駅前SDGs発掘マップ



(2024年3月現在)

4 MAGO GALLERY FUKUI

福井市中央1-13-4 (新栄商店街内)
開館時間/12:00～19:00 (日祝は18:00まで)
閉館日/火・水

長坂真護氏の作品を常設展示・販売しているギャラリー



3 アコールコンクリートNタイプ

設置場所/福井駅西口駅前広場バスターミナル

敦賀火力発電所から発生する石炭灰をコンクリートの材料として
使用しています。



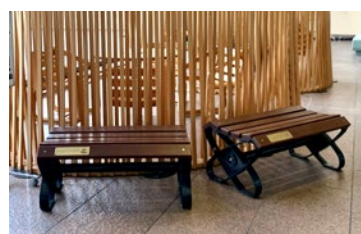
5 クリアランスベンチ

設置場所/福井県庁1階県庁ホール

利用時間/8:30～17:15

閉館日/土・日・祝

廃炉作業等により
原子力発電所から出てきた廃材を
リサイクルした金属を活用した
ベンチを設置しています。



6 東二ノ丸広場

福井市大手2-11

石垣やお堀を望むオープンスペースとして、多目的に利用できる芝生広場では、
えちぜん鉄道で使用されていた枕木を活用しています。



7 まちかど幸福(しあわせ)ピアノ

設置場所/えちぜん鉄道福井駅内

利用時間/9:00～20:00

誰もが演奏できるストリートピアノは、
廃校となった宅良小学校(旧今庄町)で
使用されていたものを活用しています。



8 人工再生木「プラスッド」 デッキ・ベンチ

設置場所/福井駅東口
「福井市観光交流センター」屋上広場
福井県産の間伐材とリサイクル樹脂を複合した
「プラスッド」は、耐久性に優れ、
デッキ等に使用することでCO2固定に繋がり、
SDGsに貢献できる人工再生木です。



※詳しくは各種二次元バーコードをご覧ください。